

一般廃棄物処理施設維持管理記録簿[焼却]（令和元年6月）

対象期間：令和元年6月1日～令和元年6月30日

焼却した一般廃棄物の種類及び数量

種類		数量(単位)
一般廃棄物	紙・布類	449.12 (t/月)
	木・竹類	102.33 (t/月)
	ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類	276.29 (t/月)
	厨芥類	191.02 (t/月)
	不燃物類	13.64 (t/月)
	その他	104.61 (t/月)

燃焼ガス及び排ガスの分析の実績状況と措置(連続測定記録)

	燃焼ガス温度	集塵機流入ガス温度	排ガス中の一酸化炭素濃度
測定位置	燃焼ガス出口(炉頂)	バグフィルタ前ダクト	バグフィルタ出口ダクト
測定結果が得られた日	令和元年7月1日	令和元年7月1日	令和元年7月1日
測定結果	1号炉月平均 861℃	1号炉月平均 188℃	1号炉月平均 34 ppm
	2号炉月平均 864℃	2号炉月平均 188℃	2号炉月平均 53 ppm
	別紙参照	別紙参照	別紙参照

※上記のチャート紙は桂苑のみ開示

ばいじんの除去の実施状況と措置

	冷却設備(ガス冷却装置)	排ガス処理設備(バグフィルタ)
ばいじんの除去を行った日	令和元年6月4日 スートフロア 1・2号	平常運転中 バグフィルタの除じんはすべて機器によるエアージェットのみ。 ※タイマー 約3分間で16列を一巡 ※差圧計により反応、ランダムに可動。一日に10~15回程度。
ばいじんの除去を行った日	令和元年6月5日 スートフロア 1号	
ばいじんの除去を行った日	令和元年6月6日 スートフロア 1号	
ばいじんの除去を行った日	令和元年6月7日 スートフロア 1号	
ばいじんの除去を行った日	令和元年6月11日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和元年6月12日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和元年6月19日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和元年6月20日 スートフロア 1号	
ばいじんの除去を行った日	令和元年6月21日 スートフロア 1号	
ばいじんの除去を行った日	令和元年6月25日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和元年6月26日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和元年6月27日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和元年6月28日 スートフロア 1・2号	

熱灼原料分析結果

	1ヶ月に1回以上	結果	1年に1回以上	結果
採取位置	1, 2号BF・GCT下	1.4 %	不燃物コンベア	%
採取した年月日	令和元年6月4日		令和元年 月 日	
測定結果が得られた日	令和元年6月21日		令和元年 月 日	

排ガスの分析結果

			6ヶ月に1回以上	1年に一回以上
採取位置			バグフィルタ出口ダクト	煙道
採取した年月日			令和元年6月4日	令和元年 月 日
測定結果が得られた日			令和元年6月21日	1号 令和元年 月 日 2号 令和元年 月 日
ダイオキシン類				1号 (ng-TEQ/m ³ N) 2号 (ng-TEQ/m ³ N)
ばい煙量又は ばい煙濃度	硫黄酸化物	1号	(m ³ /h)	/
		2号	(m ³ /h)	
	ばいじん	1号	(g/m ³ n)	
		2号	(g/m ³ n)	
	塩化水素	1号	定量下限値未満 (mg/m ³ n)	
		2号	定量下限値未満 (mg/m ³ n)	
	窒素酸化物	1号	47 (cm ³ /m ³ n)	
		2号	52 (cm ³ /m ³ n)	

第 S1906032 号
令和元年6月21日

試験成績書

ふくおか県中央環境広域施設組合 様

環境計量証明事業 福岡県登録濃度第7号
株式会社 環境科学システム
〒816-0901福岡県大野城市乙金東三丁目10番12号
TEL (092)504-2869(代) FAX(092)504-2899
代表取締役 島林 信広

依頼されました試料の試験結果は、以下のとおりです。

施設名	桂苑 ごみ焼却処理施設
試料名	フライアッシュ
採取年月日	令和元年6月4日
採取時間	5:00
採取箇所	1, 2号BF・GC
採取者	依頼者
試料提出日	令和元年6月4日
試験項目	試験結果
水分 (%)	---
大型不燃物 (%)	---
熱灼減量 (%)	1.4

【備考】

試験方法：昭和52年11月4日環整第95号に準じた。



第 N1906039 号
令和元年6月21日

濃 度 計 量 証 明 書

ふくおか県央環境広域施設組合 様

環境計量証明事業 福岡県登録濃度第 7 号
 株式会社 環境科学システム
 〒816-0901 福岡県大野城市乙金東三丁目10番12号
 TEL (092)504-2869(代) FAX (092)504-2893
 環境計量士 第環6050号 島林 信広

依頼されました試料の計量結果は、
以下のとおりであることを証明します。

施設名	桂苑 ごみ焼却処理施設	試料採取箇所	1号BF出口
試料採取日	令和元年6月4日	採取時間	10:55 ~ 12:03
計 量 対 象		【計 量 結 果】	定量下限値
硫黄酸化物	C vol ppm	---	---
	※ 乾き排ガス流量 m ³ /h *1	---	
	※ C o m ³ /h *2	---	
*3 窒素酸化物	C s vol ppm	40	10
	※ C vol ppm	47	
	酸素 O s %	13.4	
*4 塩化水素	C s mg/m ³	定量下限値未滿	1
	※ C mg/m ³	---	
	酸素 O s %	11.4	

- (1) 計量の方法
 ①硫黄酸化物 JIS K 0103 7.1 イオンクロマトグラフ法
 ②窒素酸化物 JIS K 0104 7.3 イオンクロマトグラフ法
 ③塩化水素 JIS K 0107 7.1 イオンクロマトグラフ法

(2) 算出方法

*1) 乾き排ガス流量

$$\text{断面積 (m}^2\text{)} \times \text{流速 (m/s)} \times 60^2 \times \left\{ \frac{273.15}{273.15 + \theta_2} \right\} \times \left\{ \frac{(P_a + P_s)}{101.32} \right\} \times (1 - W/100)$$

$$\theta_2 : \text{排ガス温度 (}^\circ\text{C)} \quad P_a : \text{大気圧 (kPa)}$$

$$W : \text{排ガスの水分 (\%)} \quad P_s : \text{排ガスの静圧 (kPa)}$$

*2) 硫黄酸化物量の計算

$$C_o (\text{m}^3/\text{h}) = C (\text{vol ppm}) \times \text{乾き排ガス流量 (m}^3/\text{h}) \times 10^{-6}$$

$$C : \text{省令で定める方法により測定された硫黄酸化物の濃度 (vol ppm)}$$

$$C_o : \text{標準状態における乾き排ガス中の硫黄酸化物の量 (m}^3/\text{h)}$$

*3) 窒素酸化物

$$C = [(21 - O_n) / (21 - O_s)] \cdot C_s (\text{vol ppm})$$

$$C : \text{標準状態における乾き排ガス中の窒素酸化物の量 (vol ppm) (vol ppm = cm}^3/\text{m}^3\text{)}$$

$$O_s : \text{排ガス中の酸素濃度 (\%)} \quad O_n : \text{政令で定める値 (12) (\%)}$$

$$C_s : \text{省令で定める方法により測定された窒素酸化物の濃度 (vol ppm)}$$

*4) 塩化水素

$$C = [9 / (21 - O_s)] \cdot C_s (\text{mg/m}^3)$$

$$C : \text{標準状態における乾き排ガス中の塩化水素の量 (mg/m}^3\text{)}$$

$$O_s : \text{排ガス中の酸素濃度 (\%)} \quad C_s : \text{省令で定める方法により測定された塩化水素の濃度 (mg/m}^3\text{)}$$

※標準状態とは、273.15K(0°C)、101.32kPaの状態

(3) 上記※印の項目は計量法第107条計量証明対象外。



濃 度 計 量 証 明 書

ふくおか県央環境広域施設組合 様

環境計量証明事業 福岡県登録濃度第7号

株式会社 環境科学システム

〒816-0901 福岡県大野城市乙金東三丁目10番12号

TEL (092)504-2869(代) FAX (092)504-2893

環境計量士 第環6050号 島林 信広 印

依頼されました試料の計量結果は、
以下のとおりであることを証明します。

施設名	桂苑 ごみ焼却処理施設		試料採取箇所	2号BF出口
試料採取日	令和元年6月4日		採取時間	12:50 ~ 13:57
計 量 対 象			【計 量 結 果】	定量下限値
硫黄酸化物	C	vol ppm	---	—
	※ 乾き排ガス流量	m ³ /h *1	---	
	※ C _o	m ³ /h *2	---	
*3 窒素酸化物	C _s	vol ppm	47	10
	※ C	vol ppm	52	
	酸素 O _s	%	12.8	
*4 塩化水素	C _s	mg/m ³	定量下限値未満	1
	※ C	mg/m ³	---	
	酸素 O _s	%	13.6	

(1) 計量の方法

- ①硫黄酸化物 JIS K 0103 7.1 イオンクロマトグラフ法
- ②窒素酸化物 JIS K 0104 7.3 イオンクロマトグラフ法
- ③塩化水素 JIS K 0107 7.1 イオンクロマトグラフ法

(2) 算出方法

*1) 乾き排ガス流量

$$\text{断面積 (m}^2\text{)} \times \text{流速 (m/s)} \times 60^2 \times \{273.15 / (273.15 + \theta_2)\} \times \{(Pa + Ps) / 101.32\} \times (1 - W / 100)$$

θ_2 : 排ガス温度 (°C)

Pa : 大気圧 (kPa)

W : 排ガスの水分 (%)

Ps : 排ガスの静圧 (kPa)

*2) 硫黄酸化物量の計算

$$Co (\text{m}^3/\text{h}) = C (\text{vol ppm}) \times \text{乾き排ガス流量 (m}^3/\text{h)} \times 10^{-6}$$

Co : 標準状態における乾き排ガス中の
硫黄酸化物の量 (m³/h)

C : 省令で定める方法により測定された
硫黄酸化物の濃度 (vol ppm)

*3) 窒素酸化物

$$C = [(21 - On) / (21 - Os)] \cdot Cs (\text{vol ppm})$$

C : 標準状態における乾き排ガス中の
窒素酸化物の量 (vol ppm) (vol ppm = cm³/m³)

Os : 排ガス中の酸素濃度 (%)

On : 政令で定める値 (12) (%)

Cs : 省令で定める方法により測定された
窒素酸化物の濃度 (vol ppm)

*4) 塩化水素

$$C = [9 / (21 - Os)] \cdot Cs (\text{mg/m}^3)$$

C : 標準状態における乾き排ガス中の
塩化水素の量 (mg/m³)

Os : 排ガス中の酸素濃度 (%)

Cs : 省令で定める方法により測定された
塩化水素の濃度 (mg/m³)

※標準状態とは、273.15K(0°C)、101.32kPaの状態

(3) 上記※印の項目は計量法第107条計量証明対象外。



第 S1906030 号
令和元年6月21日

試験成績書

ふくおか県中央環境広域施設組合 様

環境計量証明事業 福岡県登録濃度第7号

株式会社 環境科学システム

〒816-0901 福岡県大野城市乙金東三丁目10番12号

TEL (092) 504-2869 (代) FAX (092) 5042899

代表取締役 川島 信広 印

依頼されました試料の試験結果は、以下のとおりです。

施設名	桂苑 ごみ焼却処理施設		試料採取箇所	1号BF出口
試料採取日	令和元年6月4日		採取時間	10:53~12:34
試験項目	単位	試験結果	定量下限値	試験方法
水銀及びその化合物	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.53	(備考参照)	JIS K 0222 5 (還元気化原子吸光分析法)
		-以下余白-		

【備考】

- ・濃度は、標準状態 [273.15K(0°C)、101.32kPa] における乾き排ガス中の濃度で示したものの。
- ・計量結果はガス状水銀と粒子状水銀を酸素換算した後合算したものの。
- ・各下限値は、次のとおり。
 - <検出下限値> ガス状水銀 $0.015\mu\text{g}/\text{m}^3$
粒子状水銀 $0.0015\mu\text{g}/\text{m}^3$
 - <定量下限値> ガス状水銀 $0.055\mu\text{g}/\text{m}^3$
粒子状水銀 $0.0060\mu\text{g}/\text{m}^3$



試験成績書

ふくおか県中央環境広域施設組合 様

環境計量証明事業 福岡県登録濃度第7号
株式会社 環境科学システム
〒816-0901福岡県大野城市石見東三丁目10番12号
TEL (092) 5042899(代) FAX (092) 5042893
代表取締役 三川 島林 信成

依頼されました試料の試験結果は、以下のとおりです。

施設名	桂苑 ごみ焼却処理施設		試料採取箇所	2号BF出口
試料採取日	令和元年6月4日		採取時間	12:48~14:28
試験項目	単位	試験結果	定量下限値	試験方法
水銀及びその化合物	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.76	(備考参照)	JIS K 0222 5 (還元気化原子吸光分析法)
		-以下余白-		

【備考】
 ・濃度は、標準状態 [273.15K(0℃)、101.32kPa] における乾き排ガス中の濃度で示したもの。
 ・計量結果はガス状水銀と粒子状水銀を酸素換算した後合算したもの。
 ・各下限値は、次のとおり。
 <検出下限値> ガス状水銀 0.015 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
 粒子状水銀 0.0015 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
 <定量下限値> ガス状水銀 0.055 $\mu\text{g}/\text{m}^3$
 粒子状水銀 0.0060 $\mu\text{g}/\text{m}^3$

